

新規事業採択時評価結果（平成21年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

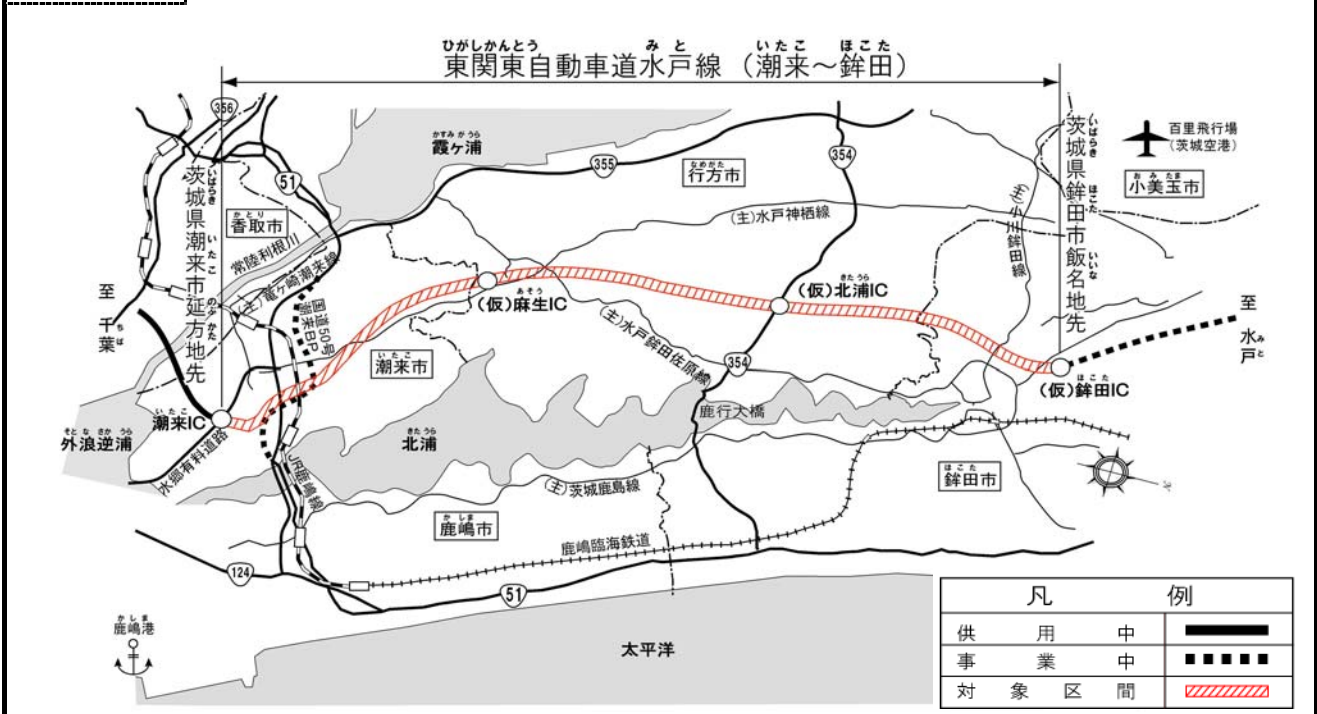
路線名	東 関東自動車道水戸線（潮来～銚田）		事業区分	高速自動車国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自：茨城県潮来市延方 至：茨城県銚田市飯名			延長	31 km	
事業概要 東 関東自動車道水戸線は東 京都練馬区を起点として千葉県を経て茨城県水戸市に至る延長約140kmの高規格幹線道路であり、現在までに約79kmを供用中である。 このうち、潮来IC～(仮称)銚田IC間（約31km）は、平成20年10月に都市計画決定され、第4回国土開発幹線自動車道建設会議（平成21年4月）を経て、整備計画が決定された。						
事業の目的、必要性 高規格幹線道路のミッシングリンクである当該区間を整備することにより、重要港湾群（鹿島港・茨城港）や成田空港・茨城空港へのアクセス向上や、並行する国道51号等の安全性向上、災害時のリダンダンシーの確保を図るとともに、北関東と東関東の連携交流の促進に寄与するものである。						
全体事業費	710億円			計画交通量	13,500～13,900台/日	
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年		
	1.5	578億円 （事業費：530億円 維持修繕費：48億円）	890億円 （走行時間短縮便益：780億円 走行経費減少便益：25億円 交通事故減少便益：85億円）	平成21年		
感度分析の結果 交通量変動：B/C=1.7（交通量+10%） B/C=1.4（交通量-10%） 事業費変動：B/C=1.4（事業費+10%） B/C=1.7（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=1.4（事業期間+20%） B/C=1.7（事業期間-20%）						
事業の効果等 <自動車や歩行者への影響> ・渋滞対策：県内における渋滞損失時間が高い区間の渋滞緩和が見込まれる。 ・事故対策：県内における死傷事故率が高い区間の事故の減少が見込まれる。 <社会全体への影響> ・住民生活：第三次医療施設国立病院機構水戸医療センターへの時間短縮が見込まれる。 （潮来市～水戸医療センターの所要時間63分→50分） ・地域経済：鹿島臨海工業地帯への3時間到達圏域が1.5倍に拡大される。 ・災害：常磐自動車道の代替ルートとして首都圏への救急物資の搬送ルートの確保が図られる。 ・地域社会：重要港湾群（鹿島港・茨城港）や成田空港・茨城空港へのアクセス向上が見込まれる。						

関係する地方公共団体等の意見

平成21年5月に整備計画について、茨城県知事の同意を得ている。

東関東自動車道水戸線建設促進期成同盟会（会長：茨城県知事）及び東関東自動車道水戸線潮来～鉾田間建設促進期成同盟会（会長：潮来市長）から、整備計画への早期格上げ及び早期事業化の要望を受けている。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。